

全校研究シート 1

学部	小学部		
対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（                      ）		
対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分摂取をすることが苦手である。</li> <li>・衣服の着脱の受け入れが難しい。</li> <li>・情緒の安定のための要求の伝え方が未収得である。</li> <li>・大人との適切なコミュニケーションが苦手である。</li> </ul>		
自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのコミュニケーションに対する意欲を高めるために、他者と好きな活動と一緒に取り組む経験を積む。</li> </ul>		
上記目標に対応する区分	健康の保持 環境の把握	心理的な安定 身体の動き	人間関係の形成 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の好きな活動に教員と一緒に取り組む中で、本児の要求を受け入れる。</li> </ul>		
児童生徒の様子、変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人への要求が増え、教員によって要求することを変えるなど、大人への対応も分けるようになった。</li> <li>・心理的に安定し、切り替えが早くなったり、笑顔が増えたりするようになり、苦手なことの受け入れもできるようになってきた。見通しも少しずつ持ってきている。</li> </ul>		
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な水分をもっと摂れるようにしたい。</li> <li>・人が好きすぎて甘えてしまい、なかなか作業が進まないときがあるため、切り替えできるようにしたい。</li> <li>・石や砂を投げる行動がみられるため、ストレス発散や好きな遊びの種類を増やし、適切な行動へ変えていきたい。</li> </ul>		

全校研究シート 2

学部	小学部
対象児童生徒の障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
対象児童生徒の課題	手先の感覚や目と手の協応が難しい場面がある。
自立活動の目標	紙の両端を合わせ、きれいにたたむことができる。 （姿勢と運動、動作の基本的技能に関すること） （日常生活に関する基本動作に関すること）
上記目標に対応する区分	健康の保持                      心理的な安定                      人間関係の形成 環境の把握 <u>身体の動き</u> コミュニケーション
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習を設定する。</li> <li>・好きなキャラクターを紙の四隅に印刷し、それを目印にするように促す。</li> </ul>
児童生徒の様子、変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初に比べ、半分に丁寧にたためるようになってきた。</li> </ul>
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目印がなくても丁寧にきれいにたたんだり、物を扱えたりできるようになることをめざして活動することが望ましい。</li> </ul>

全校研究シート 3

学部	小学部						
対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
対象児童生徒の課題	1（1）排泄の指導・清潔の保持 2（2）問題行動の軽減・場面や状況の理解・不安や混乱に対するヘルプ 3（4）課題の共同作業の促進 4（2）視覚教材の活用プログラム 5（1）姿勢・動作の把握・身体像の形成 （3）食事に関する動作 （4）動きを「止める」コントロール学習・動きを「ゆっくり」「はやく」のスピード比較の実行 6（1）ことばを用いたコミュニケーション （3）自発的な意思や要求の表出 （5）声の大きさの調節学習						
自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな活動に、一定時間座って取り組むことができる。</li> </ul>						
上記目標に対応する区分	<table border="0"> <tr> <td><u>健康の保持</u></td> <td><u>心理的な安定</u></td> <td><u>人間関係の形成</u></td> </tr> <tr> <td><u>環境の把握</u></td> <td><u>身体の動き</u></td> <td><u>コミュニケーション</u></td> </tr> </table>	<u>健康の保持</u>	<u>心理的な安定</u>	<u>人間関係の形成</u>	<u>環境の把握</u>	<u>身体の動き</u>	<u>コミュニケーション</u>
<u>健康の保持</u>	<u>心理的な安定</u>	<u>人間関係の形成</u>					
<u>環境の把握</u>	<u>身体の動き</u>	<u>コミュニケーション</u>					
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>本児が好きな童謡などの動画を流し、椅子に座った状態で曲に合わせて一緒に歌うように促す。</li> <li>マイクとアンプを使用し、自分の声を意識し、音量を調整できるようにする。</li> <li>何を歌いたいかを本児に聞き、ことばでの応答を促す。</li> </ul>						
児童生徒の様子、変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導当初はアンプから出る自分の声に関心が強く、スピーカに耳をつけ座っている時間は5秒前後だったが、1月現在、リクエストした曲を歌い終わるまで（3分程度）着席できている。また教員が言葉がけせずとも「〇〇先生、マイクする」と自分から教員に要求するようになった。</li> </ul>						
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の課題としては、特に友だちに対して相手にわかりやすい伝え方を身につけることと考えている。（例：「〇〇さん、ちょちょ」ではなく、「いっしょにあそぼう」など）</li> <li>本児のこころの状態は、環境に左右される面が非常に大きい印象を受ける。最近では外から聞こえる音や特定の児童の声や校内放送のほか、日光や冷たい風などにも過敏になり、目をつぶって大きな声や唸り声をあげるなどの様子がある。家庭と連携して、3学期に入り学校でイヤーマフをつけており、感覚の過敏性への配慮は継続して行っていきたい。</li> </ul>						

全校研究シート 4

学部	中学部
対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
対象児童生徒の課題	① 唾遊び ② 水遊び ③ 分別をつけずに高いところに登る ④ 人のものを突発的にさわる ⑤ 尿や便を漏らす（特定場面するとき） ⑥ 人の汗を触る
自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>唾を吐き出す感覚を、代替物を使用して、置き換えることができる。</li> </ul>
上記目標に対応する区分	健康の保持 <u>心理的な安定</u> 人間関係の形成 環境の把握                      身体の動き                      コミュニケーション
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>代替行動として、ゆっくりとした水の流りに近い材料を準備し、感覚を満たせられるようにする。</li> <li>ルールを確認し、代替物で行動を置き替えられるようにする。</li> </ul>
児童生徒の様子、変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>唾を出す行動は、唾の垂れる状態を見て楽しんでいることが分かったため、教室で水を使って遊ぶ環境を整えた。ボトルを使用する際、口の部分から垂れる水を見て楽しんでおり、その感覚を満たすことで唾遊びが減ったと思われる。また季節的なことやブームもあると思われる。</li> </ul>
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスクを継続して着用するように促す。</li> <li>水に触れる機会を作る（水が垂れるような）。 →水が垂れるような道具があれば代替できる。</li> </ul>

学部	中学部
対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
対象児童生徒の課題	① 唾遊び ② 水遊び ③ 分別をつけずに高いところに登る ④ 人のものを突発的にさわる ⑤ 尿や便を漏らす（特定場面するとき） ⑥ 人の汗を触る
自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>唾を吐き出す感覚を、代替物を使用して、置き換えることができる。</li> </ul>
上記目標に対応する区分	健康の保持 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span> 人間関係の形成 環境の把握                      身体の動き                      コミュニケーション
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>代替行動として、ゆっくりとした水の流れに近い材料を準備し、感覚を満たせられるようにする。</li> <li>ルールを確認し、代替物で行動を置き替えられるようにする。</li> </ul>
児童生徒の様子、変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>唾を出す行動は、唾の垂れる状態を見て楽しんでいることが分かったため、教室で水を使って遊ぶ環境を整えた。ボトルを使用する際、口の部分から垂れる水を見て楽しんでおり、その感覚を満たすことで唾遊びが減ったと思われる。また季節的なことやブームもあると思われる。</li> </ul>
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスクを継続して着用するように促す。</li> <li>水に触れる機会を作る（水が垂れるような）。 →水が垂れるような道具があれば代替できる。</li> </ul>

全校研究シート 6

学部	中学部
対象児童生徒の障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（      ダウン症      ）
対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべきことの優先順位の理解</li> <li>・自他ともの物の管理</li> <li>・伝えたいことを伝えきれない。</li> </ul>
自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべきことを理解し、スムーズに行動する</li> <li>・物を管理する力を身に付ける。</li> <li>・自ら伝えられる言葉をふやす。</li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">健康の保持 環境の把握</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</div> <div style="text-align: center;">身体の動き</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">人間関係の形成</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</div> </div>
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズに行動できた時はほめる。あえて声をかけないことも選択の一つとして関わり、ひとりで行動できた時はほめる。</li> <li>・物の置き場所を伝え、クラスの物を使用するときのルールを設定するなど身の回りの環境を整える。</li> <li>・本人の伝えたいことをくみ取り、適切な手話やハンドサイン、言葉に言い換えて伝える。</li> </ul>
児童生徒の様子、変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室から出る時や教室の物を使用したい時に教員へ伝える頻度が増えたが、まだまだ伝えずに行動することがある。</li> <li>・伝えたいことが、発語やハンドサインで出ない時は、絵カードを使って伝えることも増えた。</li> </ul>
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発語の数を増やす取り組みをしつつ、合わせてハンドサインの数も増やしていく。</li> <li>・自分のしたいこととしなければならないことの優先順位をつけるように言葉かけをし、一緒に考える。</li> </ul>

学部	高等部
対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 精神遅滞 ）
対象児童生徒の課題	気持ちに合った言葉の表出が難しい。 間違った言葉を使ったりマイナス発言をしたりして周囲を傷つけることもある。
自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の感情を正しく表出できる。</li> <li>• その時に合った気持ちを表現する語彙を増やす。</li> </ul>
上記目標に対応する区分	健康の保持                      心理的な安定                      人間関係の形成 環境の把握                      身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 連絡帳の様式を記述式に変更する。</li> <li>• 振り返りシートを作成する。</li> </ul>
児童生徒の様子、変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 連絡帳に日々の活動内容を記入することで、自分の頑張りやできたことを振り返り自信を持つことができた。自信を持つことで心の安定に繋がり、嫌なことがあった際にもすぐにマイナス発言をするのではなく、少し我慢をして担任に助けを求めるといことができるようになった。</li> <li>• 語彙に関しては、その都度聞き取りをしながら気持ちに近いと思われる2～3個の語彙を提示して選択を促した。これを繰り返すことで、気持ちを表す語彙が増えてきた。</li> </ul>
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特定の教員（担任）以外が対応をする際には、マイナス発言が出てしまうことがあるので、担任以外の教員も自分を助けてくれる存在だということを伝えて安心できる環境を作っていけるよう支援していく。</li> </ul>

全校研究シート 8

学部	高等部						
対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
対象児童生徒の課題	<p>イライラしたときに物を投げたり机を激しく叩いたり大声を出したりする。</p> <p>苦手な場所とわかっているにもかかわらず、場を離れることの不安感から、気持ちが不安定なままそこに向かってしまう。</p>						
自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イライラした時、思いを適切に表出できるようになる。</li> <li>・休憩を挟むことができる。もしくは別のところで休むことを選択することができるようになる。</li> </ul>						
上記目標に対応する区分	<table border="0"> <tr> <td>健康の保持</td> <td><u>心理的な安定</u></td> <td>人間関係の形成</td> </tr> <tr> <td>環境の把握</td> <td>身体の動き</td> <td>コミュニケーション</td> </tr> </table>	健康の保持	<u>心理的な安定</u>	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	<u>心理的な安定</u>	人間関係の形成					
環境の把握	身体の動き	コミュニケーション					
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて過ごせる場面を増やす。</li> <li>・スケジュールを定め、休憩のポイントを提示する。</li> <li>・音などの刺激が入らないよう、活動に応じて距離をとるように促す。</li> </ul>						
児童生徒の様子、変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器を使用して遠隔参加する経験を通して、集会などの苦手な活動に参加することができた。児童生徒会選挙の際には落ち着いて投票を行うことができた。</li> <li>・遠隔での参加ができるという安心感から、教員の言葉かけや助言、促して休憩やカームダウンの場所に移動することを受け入れることが増えた。</li> </ul>						
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔で参加する機会を設定することで、音量やある程度のタイミングなどを生徒に合わせて調整支援することができた。しかし、ICT 機器準備の煩雑さや動画などの安定性、教員の情報活用能力など不安要素が残る。また活動場所を分ける関係上、教員の確保も難しい場面が多々あった。</li> <li>・個別の支援から、環境の整備として学年などで場所を設定できないか探っていく。</li> </ul>						



学部	高等部			
対象児童生徒の障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
対象児童生徒の課題	<p>肘を曲げた状態で腕を上げていることが多く、肩や背中に力が入っていることが多い。</p> <p>手首が硬く、スナップを使った動きをすることが難しい。</p>			
自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手首の柔軟性を高める。</li> <li>・適切な姿勢で清掃ができる。</li> </ul>			
上記目標に対応する区分	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;">健康の保持 環境の把握</td> <td style="width: 33%; border: none;">心理的な安定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span></td> <td style="width: 33%; border: none;">人間関係の形成 コミュニケーション</td> </tr> </table>	健康の保持 環境の把握	心理的な安定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span>	人間関係の形成 コミュニケーション
健康の保持 環境の把握	心理的な安定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span>	人間関係の形成 コミュニケーション		
支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物を握る経験を積む。補助具を使用する。</li> <li>・持ち手をつけたモップを用意する。</li> </ul>			
児童生徒の様子、変化	<p>・「腕が上がり、力が入っている」「手首が硬く、スナップが難しい」という課題について、保護者が主治医に相談すると身体的な障がいではなく本人が好んでやっているのだろうという見解であった。クラスとして、腕を自然と降ろす活動として棒入れや輪入れ、うつ伏せストレッチを取り入れた。変化としては、給食のスプーン使用時少しすくいやすくなっている様子が見られる。腕の上がりについては、作業やストレッチで降ろすことは可能であるが手首についてはこれ以上難しいのではないかと感じている。</p>			
今後に向けて	<p>・自立活動として、作業に取り組むことによって身体的機能以外にも集中できる時間が増えるなど他にも良い効果が見られた。作業系の療育にも通っているということで、療育の先生から学校でも作業を取り入れているためか、集中力が上がり、作業時に怒ることも少なくなっていると言っている。今後、様々な作業課題に取り組み心の安定をさらに強化できると卒業後に生かせると感じている。</p>			

